

手術部

Department of Operation Center

当部門は、平成6年より専任教官を置き、研究所附属病院での手術症例の周術期管理を行っている。特に、平成8年に手術室の改装及び機材設備の更新を計り高度な患者管理が可能となっている。臨床研究としては、当初は手術症例における血中サイトカインへの麻酔薬の影響を追跡してきた。平成11年よりは、急性期医療での酸化ストレス防御機構の中で、術中生体内チオール基の酸化還元に影響する蛋白質の変化を追跡している。

人事異動としては、平成10年末に谷口省吾講師が退官し、福岡歯科大学麻酔科教授に就任した。

生体の酸化障害防御研究

Glutaredoxin, Thioredoxin system は、生体内で酸化分子の消去作、活性チオール基を持つ蛋白質の酸化還元を司る事で、生体機能の調節作用を持っている。その中で Glutaredoxin は活性酸素の消去、障害酵素の再生化、Thioredoxin system は細胞内転写調節因子の作用調節、サイトカイン、ステロイド受容体調節等の役割を果たしている。特に手術中の患者は活性酸素の生成など酸化機構が活性化され、生体の恒常性が障害される。そこで我々は、周術期の生体内 Glutaredoxin、Thioredoxin system の変動を、麻酔薬、合併症の影響等を通して見ている。現在の所は、前記蛋白質の血漿中変移を蛋白量、活性変化で検出する事を目的としている。

業績目録

学会発表

1. 米盛輝武, 吉武慎一郎, 佐藤道子, 高松純。(1999, 5/26-28).
Flurbiprofen axetil による術後鎮痛効果の比較。
第46回日本麻酔学会大会, 札幌.